

イオン

三陸鉄道南リアス線の甫嶺駅前
地区自治会と共同で植樹会を実施
ハナミズキやサツキなど500本の苗木を提供



植樹の様相

イオンは今年6月26日、岩手県大船渡市三陸町の甫嶺（ほれい）地区自治会と三陸鉄道南リアス線「甫嶺駅」駅前
で環境美化の植樹会を行った。
2011年に発生した東日

本大震災以前、同駅前にはサクラの木や甫嶺地区の自治会、老人クラブが整備していた花壇があり、地域に親しまれていたが、震災時の大津波で流

全てが無くなっ
てしまっていた。
イオンでは東
日本大震災から
の被災地の復
旧・復興を支援
するボランティア
活動「イオン
心をつなぐプロ
ジェクト」を労
使一体となって
展開しており、
同ボランティア
活動の一つであ
る「イオン心
をつなぐ森づく

り植樹」の一環として今回の植樹会を地区自治会と共同で実施。ハナミズキやサツキなど500本の苗木を提供したほか花壇の土の入れ替えを行った。

植樹会には甫嶺地区住民やイオンスーパーセンター従業員などのボランティア計60名以上が参加。参加者たちは青空のもと、駅前の花壇にハナミズキやサツキなどの苗木を丁寧に植え付けたほか、震災当時、花壇に自生していたというスイセンの苗100本ほどもきれいに植え直した。

植樹会には甫嶺地区住民やイオンスーパーセンター従業員などのボランティア計60名以上が参加。参加者たちは青空のもと、駅前の花壇にハナミズキやサツキなどの苗木を丁寧に植え付けたほか、震災当時、花壇に自生していたというスイセンの苗100本ほどもきれいに植え直した。

また、植樹に先立ち行われた開会式では金野周明・大船渡市副市長や望月雅彦・三陸鉄道社長などの祝辞とともに、甫嶺地区自治会の及川哲会長があいさつに立ち、「震災直後は三陸鉄道の再開を諦めていた部分があった。だが、今年4月に全線運行が達成された今回の植樹会も開くことが出来て喜びもひとしおである。いただいた苗木は地区住民で管理して、花咲く地域を目指

したい」と謝辞を述べた。三陸鉄道の駅はその多くが海岸の近くにあり、大震災時に津波の被害を受けたが、イオンでは三陸鉄道は地元住民の人々のかけがえのない足であるとの思いから同鉄道を支援。これまでに失われた海岸線の再生をはじめ、久慈市漁協・三陸鉄道・イオンの三者協働による「骨取りサンマ・骨取りサバ」の商品化、今年4月の同鉄道全線開通に合わせた「三陸まつり」の展開、北リアス線でのWAOONラッピング列車の運行などを行ってきた。イオン心をつなぐ森づくり植樹」は被災した2011年から10年間にわたって30万本の植樹を進める計画で、イオンでは甫嶺駅前に引き続き三陸鉄道沿線の駅前植樹を含め、各地での植樹に取り組んで行く考えだ。



植樹会に参加した地区住民やボランティア